

犬アトピー性皮膚炎の医薬品併用試験における 「LBS エキス」の効果

阪口雅弘 (麻布大学獣医学部獣医学科)、浦野利晃 (げんき動物病院)、安部晶子 (あべ動物病院)、
作原佐世子 (上池台動物病院)、木下淳 (木下動物病院)、高橋一成 (高橋犬猫病院)、仲野友秀
(仲野どうぶつ病院)、川原井晋平、辻本元 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

「はじめに」

LBS エキスは、土から分離された土壌菌に由来するものであり、その有用菌群 (乳酸菌・納豆菌・酵母菌) を混合培養して得られた培養エキスであり、ヒトの皮膚炎に塗布すると効果があると伝えられている。本研究では、一般的な対症療法が行われている犬のアトピー性皮膚炎症例において、LBS エキスを併用した場合の併用効果を検討するため、その臨床試験を多施設において実施した。

「材料と方法」

関東地区の6動物病院に通院していた40例のアトピー性皮膚炎症例犬において臨床試験を実施した。これら症例は Willemse の臨床診断基準を満たしていた。犬の平均年齢は6歳4ヶ月齢で、雄18頭、雌22頭であった。犬種は19犬種におよび、柴犬 (10例) とシー・ズー (5例) が多く、そのほとんどが純粋犬種であった。2006年の4月～7月までの間のうちの8週間、LBS エキスを0.1～0.2 g/kg、1日1回、経口投与した。臨床試験中もそれまでに行われていた対症療法やスキンケアをそのまま継続した。治療に併用されていた薬剤としては、副腎皮質ステロイド剤 (19例)、免疫抑制剤 (シクロスポリン) (3例)、抗ヒスタミンおよび抗アレルギー薬 (11例)、インターフェロン製剤 (1例) があった。

皮膚症状はアトピー性皮膚炎の重症度指数 (CADESI) および痒みスコアによって定量的に評価した。投与終了時において投与前よりも CADESI が5ポイント以上減少した場合、あるいは痒みスコアが1ポイント以上減少した場合を、「症状の改善あり」とした。

「結果」

試験を開始した40症例中38例が8週間のLBS エキス投与を完了した。軽度から中等度の症状 (CADESI 19ポイント以下) を有する症例32例のうち20例 (63%) においてLBS 臨床試験による皮膚症状の改善が認められた。しかし、重度の症状 (CADESI 20ポイント以上) を有する6症例のなかでLBS 臨床試験後に症状の改善が認められたのは1症例 (17%) のみであった。

LBS エキス臨床試験中2例において軟便または多飲多尿・流涎が認められ、飼い主の希望によりLBS 投与を中止した。その他の症例においてはLBS 投与中に有害事象は認められなかった。

「考察」

今回、検討を行ったLBS エキスは、軽度から中等度の症状を示すアトピー性皮膚炎の犬において、症状を改善する効果があることが示唆された。本LBSは安全性の高いサプリメントとして使用できるものと考えられた。本LBSに含まれる乳酸菌に関しては、疫学的にアレルギーの発症予防に関与している可能性が示唆されている。

本研究におけるLBS エキス投与臨床試験の結果、比較的軽度の症状を示すアトピー性皮膚炎の犬において、通常スキンケア、食事コントロール、薬物療法に加えて、LBS エキスを投与することにより、皮膚症状の改善が期待できるものと考えられた。